



ヘリコバクター陰性時代における胃癌診療の将来展望

現在、日本人のいまだおよそ半数がヘリコバクター・ピロリ (HP) に感染しているが、環境衛生の向上により若年者の感染率は低下している。2013年にHP感染胃炎に対する除菌治療が保険適用となり除菌人口は増加しているが、除菌後も胃癌発生リスクは残り除菌後の胃癌病変には内視鏡診断が難しいものも少なくない。本座談会では、田中信治先生 (広島大学大学院内視鏡医学教授) による司会のもと、将来のHP陰性時代を見据えて胃癌診療、検診の現状と課題、除菌後内視鏡診断のポイント、今後の展望をディスカッションしていただいた。

(開催：2018年8月)

〈司会〉

Shinji TANAKA
田中信治



広島大学大学院医系科学研究科
内視鏡医学教授



Junko FUJISAKI
藤崎順子

がん研有明病院内視鏡診療部部长

Takuji GOTODA
後藤田卓志



日本大学医学部消化器肝臓内科学分野教授 / 日本大学病院消化器病センター長



Yuji AMANO
天野祐二

新東京病院内視鏡センター長